

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	家族介護支援事業	会計	介護保険	事業No.	221	施策順No.	35-030
		事業種別	政策・その他	予算科目	5-2-1-50-3		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	12	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	要介護3, 4, 5の認定を受けた方を在宅で介護している介護者。						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		要介護3, 4, 5の認定を受けた方を在宅で介護している介護者。	1477	1590	1610	1650	1650	
	意図	介護者の精神的、経済的負担を軽減するとともに、要介護者が快適に安心して暮らせる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	各事業の利用者数/対象者数×100	36	36	36	35	31	35	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	更に多数の介護者の参加が望まれるが、参加者数は伸び悩んでいる。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	要介護高齢者の介護者に対し、その精神的、経済的負担を軽減するため、介護用品購入券支給事業、介護者リフレッシュ事業を実施する事により、要介護者の在宅生活の継続及び向上を図る。 1 介護用品購入券支給事業:紙おむつ・尿取りパッドを購入できる券を支給。(年間6万円分) 2 介護者リフレッシュ事業:温泉や食事会、相談会に参加する事で疲労や不安の解消する。 介護用品 28名×60000円 介護者リフレッシュ 1地区90000円×20地区 60000円×2回 1人10000円×120人 22年度から「徘徊高齢者家族支援サービス事業」を分離		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 介護用品購入券支給事業	1 支給者数	1 28人
	2 介護者リフレッシュ事業	2 参加者数	2 520人
23年度実施計画	1 介護用品購入券支給事業	1 支給者数	1 人
	2 介護者リフレッシュ事業	2 参加者数	2 人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 地域支援事業交付金の任意事業 国40% 県20% 市20% 1号保険料20%
	国庫支出金		1,920	1,275	1,728	
	県支出金		960	638	864	
	起債					
	その他					
一般財源		1,920	1,276	1,728		
計 (A)		4,800	3,189	4,320		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計 (B)			0			
トータルコスト A+B			3,189			

4 事業に対する市民や議会の意見

事業の継続を希望する声が市民から寄せられている。
--------------------------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標
	安心していきいき暮らせる	安心して暮らせる高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	介護者の孤立を防ぎ、介護の不安と疲労を解消している。
	後期に向けた課題	利用者を増やす。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	事業者連絡会等で、利用推進への協力を呼び掛けている。
	後期に向けた課題	介護者へ更なる周知を図る。
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	参加者数を増やすことで相対的にコスト削減となるよう努めている。
	後期に向けた課題	事業の周知を図ることで更に参加者数を増やす。
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市がある程度負担負担することにより、介護者の経済的負担を減らす必要がある。これによって、参加者数が確保できている。
	後期に向けた課題	介護者の意見を直接聞き、更に参加しやすくなるよう工夫する。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り	各地区社会福祉協議会、まちづくり委員会、民生委員協議会等も事業の企画、参加者募集に携わっている。行政は対象者情報の提供、事業運営の事務支援をしている。
	後期に向けた課題	介護者の意見を直接聞き、事業に反映させ、更に参加しやすくなるよう工夫する。
全体を通じて	4年間の振り返り	従来からの参加者には好評だが、利用者数自体は伸び悩んでいる。
	後期に向けた課題	介護者の意見を直接聞き、更に参加しやすくなるよう工夫する。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------